

# 「神のかたち」 で生きる 霊性入門

## 最終回

### 池田モース優美

いけだ・モース・ゆみ（二〇一九年、米ハイオラ大学タルボット神学校  
バストラルケア&カウンセリング修士課程修了。セカンドレベルミニス  
トリー、ソウルケア部門ディレクター。クリスチャンの霊性、精神的支  
援のほか、霊的虐待、カルト化教会被害者の回復支援を行っている。

## 世界に拒絶されている

この一年間、「神のかたち」を自分自身の  
生き方にかたちづくる、というテーマで執筆  
させていただいたことを心から感謝してい  
ます。シリーズの最後に、どのような内容が  
よいだろうかと思いつく巡らせながら、今回  
のテーマを選びました。みなさんにとって、何  
かが前進するきっかけになりますように。

### もやもや

数か月前から、目の前に影のようなものが  
ちらつくようになりました。飛蚊症<sup>ひぶん</sup>です。詳  
しい知人に相談したところ、「加齢からくる  
もので、じきに慣れる。気にしなくてよい」と  
言われました。そんな年齢になったのか、と  
気にするところはありますが、慣れるよりは  
ありません。

今年九月、私はクリスマスカードを注文

彼女は人生を通じて、自分を恐れさせ、凍り  
つかせてきた心の感覚の正体は「拒絶（被拒  
絶感）」であると綴っています。それは、彼女  
がまだ子どもの頃に、父親が家を去っていっ  
たことに始まる感覚でした。

「私の顔も見ずに荷物をまとめる父を見  
て、私の安心感とアイデンティティを支え  
ていた最後の一片が割れた。…拒絶感<sup>ひけん</sup>は私  
の心の奥底に沈み込んだ。そして、私はあ  
る結論に達した。『（中略）お父さんにとっ  
て私は何の価値もない』。さらに、次のよう  
な結論に結びついた。『私は神にとって何  
の価値もないのではないか』。これらの感  
覚が、私の新しいアイデンティティとなっ  
たのです」（引用<sup>2</sup>『Uninvited』, Ch.3）

私の中のもやもやもまた、「世界から拒絶  
されている」という感覚でした。借金取りが  
押しかけ、料金滞納のためライフラインまで  
止められていたかつての生活。私はそこから  
「自分はこの世の中を困らせている存在だ」  
というメッセージを受け取っていました。両  
親からも社会からも私は歓迎される存在で  
はありませんでした。世界は私の敵だったの  
で、私も世界を拒絶して生きることにしたの  
です。

私の霊的同伴者は、「この世界は完璧では

するため、いくつかの印刷会社のホームページを  
開いていました。クリスマススの挨拶は私  
のミッション活動の報告を兼ねており、数が  
多いため印刷会社に注文しています。

この時、印刷会社が提示するテンプレ  
ー（見本）をスクロールするたびに、心の底か  
らもやもやとした何かが湧き上がってきま  
した。まるで視界の端に飛び込んでくる飛蚊  
症の影のようです。視界の中の黒いゴミの影  
は、目で追うとまさに飛び回る蚊のようで、  
イライラします。同じように心の中のもやも  
やも、沈殿していた池の底の泥が湧き上がる  
ような、非常に不愉快な感覚でした。

### 世界は私の場所か

この「泥」は、ずっと私の人生の中に沈殿  
していました。何度か霊的同伴者<sup>2</sup>に相談した  
に教えてくれました。

### 不平等

クリストのことを考えてみました。イエス  
はどんなふうに、世界を見ていたのでしょ  
うか。生まれる前、ヨセフがマリアの元を去ろ  
うとしたことを、両親が自分を歓迎してくれ  
ていると受け取ったでしょうか。貧しい夫婦  
のもとに生まれ、黄金のベッドではなくて藁<sup>わら</sup>  
のベッドに寝かされた時、未来は開けてい  
る感じがしたでしょうか。エリート層の若者た  
ちが神殿で教育を受けている時に自分は水汲  
みをしながらか、「彼らと自分は同じスタート  
ラインに立っている」と思ったでしょうか。  
ユダヤ地方の貧しい一人の少年にとって、  
この世界は愛と受容を感じる場所ではな  
かったでしょう。飼葉桶<sup>かき</sup>は、最後には十字架  
になりました。クリストは「招かれざる者」  
であり、イエスは「自分が世界に拒絶されて  
いることを知っていました」（ヨハネ15・18、16・  
33、18・36）。

クリストは最後に父なる神に人々の赦し  
を願い、世を去りました（ルカ23・34）。拒絶に  
対し憐れみの心をもちました。天の父に訴え  
ました。それが、世界が自分に示した拒絶に  
対する彼の姿勢でした。

ところ、その「泥」の正体は怒りであり、「拒  
絶」である、ということがわかりました。

クリスマスカードの見本には、幸せそうな  
家族が並んでいます。美しい家、豊かな生活、  
愛情深い両親、笑顔の子ども、旅行、贈り物  
：「幸せ」の展示場。そして、幼い頃の私は  
そのどれももっていませんでした。自分の現  
実と、テレビで見る「普通の」家族と生活、ど  
ちらが尋常ではないのか、当時子どもだった  
私にはわかりませんでした。確かなことは、  
正解を知ったとしても、自分の苦しみが増す  
ということでした。

「何に怒っていますか？」と霊的同伴者が  
尋ねたので、私はしばらく考えて「世界に：  
全てに」と答えました。

### 招かれざる者

有名なクリスチャン作家であるリサ・ター  
カーストは、「拒絶」をテーマに『Uninvited  
（招かれざる者）』という本を記しています。

### 拒絶を超えて

今回このことを書いた理由は、多くの人が  
「拒絶」の経験によって息を止められそう  
になっていると思ったからです。先述のリサ  
は、拒絶を経験する時に思い出すべきことの  
一つとして、「一度の失敗は、将来の失敗を決  
定的にするものではない」と述べています。

「傷ついたことを認めるのはいいことだ  
ですが、永久的な障害<sup>2</sup>にしてはいけません」  
（前出、Ch.11）

意識的にも、無意識的にも、私たちは拒絶  
されることを深く恐れて生きています。それ  
を回避する努力は、死にものぐるいである  
とも言えるほどです。○○（子ども、男、女  
など）らしくあるか、受験、昇進、競争、結婚、  
独身、経済状況、子どもの出来、教会での立  
場、縄張り争い…。私は愛されているのか、  
必要とされているのか。受け入れられている  
のか、ここに居ていいのか？…。私のように、  
拒絶に対する極端な反応を改める必要があ  
るのかもしれない。あなたを拒絶した相手  
が完全ではないということを受け止めて赦  
すことで、前に進むことができます。

新しい年が、皆様にとりまして、益々恵み  
に溢れ、神の栄光を照り輝かせる年となりま  
すように。祝福を心からお祈りしています。

※ 2…TerKeurst, L. (2016). Ch.3 There's a Lady at the Gym Who Hates Me. In Uninvited: Living loved when you feel less than, left out, and lonely. essay, Nelson Books, an imprint of Thomas Nelson.

※ 1…ある人の霊的生活や信仰の旅路に同伴し、その人が神の臨在や御業に注目し、静かに示される神の招きに気づき、応答していけるよう促す働きをする人のこと